

水の大切さを知って・学ぼう 水道週間イベント

■水道週間中、市内でさまざまなイベントを開催

6月1日から6月7日まで、さまざまなイベントが開催された「第61回水道週間」。
期間中には、多くの人々がイベントに参加し、普段何気なく使っている水道について理解を深め、水の大切さを再確認しました。



◆「生徒による記念植樹」◆

水道についての関心と理解を深めてもらうとともに、登米市の豊かな水資源を、次世代に引き継ぐため、登米中学校2年生による植樹作業が5月22日（水）、登米町日根牛字上羽沢地内で実施されました。

はじめに登米森林組合の職員の方から植樹作業の注意点などの説明を受けた後、みんなで心を込めて広葉樹の苗木200本を植樹しました。

参加した子供たちは「急な斜面を登るのが大変だったけど、一本一本丁寧に植樹をすることができてよかった。」などと感想を述べています。



森林組合の指導員から植樹の方法について説明を受けました。



苗木を両手に抱え、急な斜面を一生懸命登りました。



くわを使って土を掘り、苗木を植えました。



植樹終了後、代表者の生徒が感想を述べ、無事に終わることができました。



◆「北上川クリーン作戦」◆

登米市の水道の主な水源となっている北上川。その堤防を美化し安全を守るため、取水口周辺の堤防をきれいにする「北上川クリーン作戦」が6月5日（水）に実施されました。

当日は天候にも恵まれ、関係者をはじめ登米市管工事業協同組合の皆さんやとよま北上川かっぱの会、ボランティアなど約100名が参加し、午後3時から4時までの約1時間、北上川堤防上を清掃作業に汗を流しました。

作業では、大きなごみ袋を手に堤防や河川内に落ちているビニール類やペットボトル、空き缶、空き瓶、スプレー缶などを拾いました。終了後には流木などを含めたたくさんのゴミが回収されました。

ご協力いただいた皆さん、大変ありがとうございました。



今年度も大勢の方々にご参加いただきました。



草むらの中にある空き缶などのゴミも集めていただきました。



かっぱの会の皆さんの協力をいただき河川敷に流れ着いた大きな竹や枝などは、船で引き上げることが出来ました。



集まったゴミは、ペットボトルや空き缶、空き瓶など家庭から出るゴミがほとんどでした。



◆「園児によるヤマメの稚魚放流」◆

川に親しみを持つとともに、環境保全活動、環境教育の取り組みの一環として、6月4日（火）北上川右岸の水辺プラザ船着場で、登米北上こども園の園児23名と登米幼稚園の園児11名がヤマメの稚魚を放流しました。

園児たちは、「大きくなって帰ってきてね」と声を掛けながら、ヤマメの成長を祈って、優しく稚魚を放流しました。



ヤマメの生態について、かっぱの会の方が説明を行いました。



先生やかっぱの会の方にお手伝いいただき、ライフジャケットを着用しました。



園児たちは、はじめて見るヤマメに興味津々でした。



バケツに入ったヤマメをゆっくりと川へ放流していました。



園児たちは、放流したヤマメが泳いでいるのを見て喜んでいました。



放流が終わって園児から「ありがとうございました」とお礼の言葉を頂きました。